

番外編

ラウイ通信

【キリマンジャロ】さだまさし「風に立つライオン」という歌の中にもキリマンジャロが表現されていますが、世界の自然とは言葉にできないほど素晴らしいものだと思います。これまでマラウイ通信というタイトルの下、マラウイについてお伝えしてきましたが、今回は番外編としてアフリカ大陸最高峰（標高5895m）の山であるキリマンジャロについて記載したいと思います。先日、職場から休みを取得することができタンザニアにあるキリマンジャロ登頂に挑戦しました。私自身登山経験・知識は皆無に等しく、熊本にある山を何度か登った事がある程度で不安もありましたが、せっかくアフリカに住んでおりキリマンジャロ挑戦を果たせるのであれば是が非でも試したいという思いで数人の仲間達（訓練所時代の同期がそれぞれ違う国から集結）とアタックしてきました。さてアフリカ大陸最高峰の山と言いましてもイメージが湧かないと思いますが、ちなみに富士山の標高が3776mです。ですので富士山の頂上より更に2119mほど登る事になります。工程としても6日間をも有し、全てテント泊で過ごす事だけでも一般人には容易な事ではありません。挫けそうになりながらも登頂を果たしました。

渡邊拓人 17-2
行政サービス
ドーワ県立病院



現地ガイド・コック・ポーター等を含めた総勢約40名で登頂に挑みます。

① School HUT 3,800m

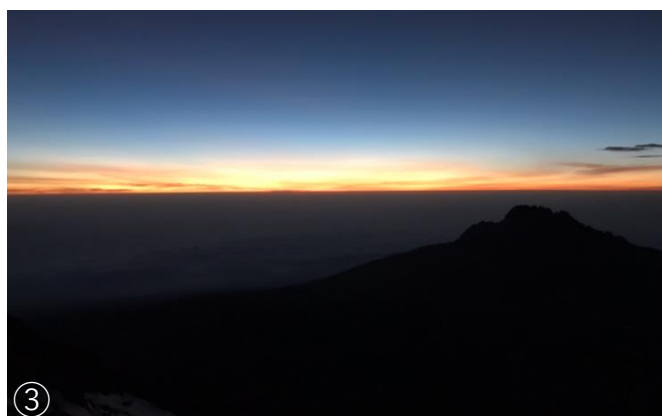
重い荷物はポーターが持ってくれます。

毎日少しずつ登って行くのですが3,500mを超えた辺りで酸素の薄さを感じ始めます。5日目が頂上へのアタック本番の日です。その前日の朝、朝食を済まし①3,800m地点から次なるベースキャンプである4,700m地点まで一気に進みます。山頂に近づくにつれて気温は低下し草木は無くなった雲の中をひた歩くこと4時間、最後のベースキャンプである②キボハットに到着しました。ここまで来ると到着直後の体は高地に順応しておらず、服を着替えるだけで息が上がり高山病の恐ろしさを感じ始めます。それから仮眠を取った後、夜中の12時より頂上である5,895mを目指し再始動です。真っ暗闇と極寒の中ヘッドランプを頼りに一步一步確実に登って行きます。ここまで来ると仲間の多くが話す事すらできなくなり、何人かは高山病で嘔吐し後れをとります。朝日を迎える頃には周囲には氷河が現れはじめ、携帯している水筒の水（川水）は凍って飲むこともできませんでした。しかし遥か③雲の上から見下ろす朝日に疲れは一瞬忘れ、これまで見た事のない自然の美しさに息を飲みました。その後さらに気温は下がっていき氷河地帯を登り続けついに山頂へと到着しました。この日は夜中の12時にキャンプを出発し約8時間登り続け必死のゴールです。④山頂は約氷点下10℃。⑤見渡す限り氷河と地平線と空に囲まれ幻想的な空間は、まるで地球をも飛び越え宇宙を感じさせるほどのスケールでした。その後、またベースキャンプまで戻り、更に下のベースキャンプまで下りました。流石に夜8時まで歩き続けた体は疲労困憊でした。翌日の最終日には一気に下山し全日程の終了です。過酷でしたが、心に刻まれた貴重な経験を得ることが出来ました。



②

②



③



④

⑤